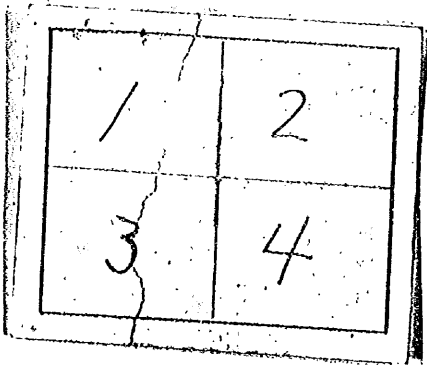


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0851
0852
0853
0854

佐
世
保

部隊原簿

第一二二二師團

部隊原簿

原簿

第一二二二番

A

部隊原簿

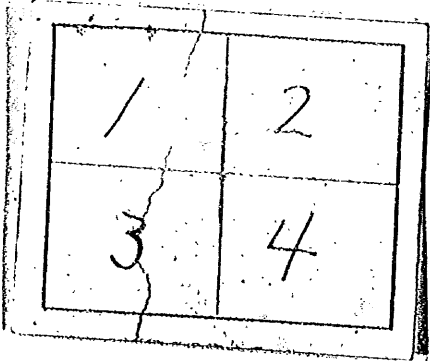
第一二三三師團

部隊原簿

第一二二師團

1HA

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0856
0855
0854
0853
0852
0851

第一方面軍軍直 部隊名 第一二二師團司令部

通稱 號

滿洲 九四六三部隊
眞鶴 二〇六一部隊

郵便所名

全般概要

轉入 十九年以降
轉出 十九年以降

員人制編

別隊

隊長名
(内は先代を不示)

開人

駐屯地
平時 戰時

戰鬥間の狀況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より入ソ返の變動

入ソ人員

滿洲残留

收

タイ

八、一三
九、一〇
九、一六
九、二二
九、二八
九、三〇
九、三二
九、三四
九、三六
九、三八
九、四〇
九、四二
九、四四
九、四六
九、四八
九、五〇
九、五二
九、五四
九、五六
九、五八
九、六〇
九、六二
九、六四
九、六六
九、六八
九、七〇
九、七二
九、七四
九、七六
九、七八
九、八〇
九、八二
九、八四
九、八六
九、八八
九、九〇
九、九二
九、九四
九、九六
九、九八
九、一〇〇

九、一〇
九、一六
九、二二
九、二八
九、三〇
九、三二
九、三四
九、三六
九、三八
九、四〇
九、四二
九、四四
九、四六
九、四八
九、五〇
九、五二
九、五四
九、五六
九、五八
九、六〇
九、六二
九、六四
九、六六
九、六八
九、七〇
九、七二
九、七四
九、七六
九、七八
九、八〇
九、八二
九、八四
九、八六
九、八八
九、九〇
九、九二
九、九四
九、九六
九、九八
九、一〇〇

九、一〇
九、一六
九、二二
九、二八
九、三〇
九、三二
九、三四
九、三六
九、三八
九、四〇
九、四二
九、四四
九、四六
九、四八
九、五〇
九、五二
九、五四
九、五六
九、五八
九、六〇
九、六二
九、六四
九、六六
九、六八
九、七〇
九、七二
九、七四
九、七六
九、七八
九、八〇
九、八二
九、八四
九、八六
九、八八
九、九〇
九、九二
九、九四
九、九六
九、九八
九、一〇〇

九、一〇
九、一六
九、二二
九、二八
九、三〇
九、三二
九、三四
九、三六
九、三八
九、四〇
九、四二
九、四四
九、四六
九、四八
九、五〇
九、五二
九、五四
九、五六
九、五八
九、六〇
九、六二
九、六四
九、六六
九、六八
九、七〇
九、七二
九、七四
九、七六
九、七八
九、八〇
九、八二
九、八四
九、八六
九、八八
九、九〇
九、九二
九、九四
九、九六
九、九八
九、一〇〇

九、一〇
九、一六
九、二二
九、二八
九、三〇
九、三二
九、三四
九、三六
九、三八
九、四〇
九、四二
九、四四
九、四六
九、四八
九、五〇
九、五二
九、五四
九、五六
九、五八
九、六〇
九、六二
九、六四
九、六六
九、六八
九、七〇
九、七二
九、七四
九、七六
九、七八
九、八〇
九、八二
九、八四
九、八六
九、八八
九、九〇
九、九二
九、九四
九、九六
九、九八
九、一〇〇

九、一〇
九、一六
九、二二
九、二八
九、三〇
九、三二
九、三四
九、三六
九、三八
九、四〇
九、四二
九、四四
九、四六
九、四八
九、五〇
九、五二
九、五四
九、五六
九、五八
九、六〇
九、六二
九、六四
九、六六
九、六八
九、七〇
九、七二
九、七四
九、七六
九、七八
九、八〇
九、八二
九、八四
九、八六
九、八八
九、九〇
九、九二
九、九四
九、九六
九、九八
九、一〇〇

九、一〇
九、一六
九、二二
九、二八
九、三〇
九、三二
九、三四
九、三六
九、三八
九、四〇
九、四二
九、四四
九、四六
九、四八
九、五〇
九、五二
九、五四
九、五六
九、五八
九、六〇
九、六二
九、六四
九、六六
九、六八
九、七〇
九、七二
九、七四
九、七六
九、七八
九、八〇
九、八二
九、八四
九、八六
九、八八
九、九〇
九、九二
九、九四
九、九六
九、九八
九、一〇〇

九、一〇
九、一六
九、二二
九、二八
九、三〇
九、三二
九、三四
九、三六
九、三八
九、四〇
九、四二
九、四四
九、四六
九、四八
九、五〇
九、五二
九、五四
九、五六
九、五八
九、六〇
九、六二
九、六四
九、六六
九、六八
九、七〇
九、七二
九、七四
九、七六
九、七八
九、八〇
九、八二
九、八四
九、八六
九、八八
九、九〇
九、九二
九、九四
九、九六
九、九八
九、一〇〇

九、一〇
九、一六
九、二二
九、二八
九、三〇
九、三二
九、三四
九、三六
九、三八
九、四〇
九、四二
九、四四
九、四六
九、四八
九、五〇
九、五二
九、五四
九、五六
九、五八
九、六〇
九、六二
九、六四
九、六六
九、六八
九、七〇
九、七二
九、七四
九、七六
九、七八
九、八〇
九、八二
九、八四
九、八六
九、八八
九、九〇
九、九二
九、九四
九、九六
九、九八
九、一〇〇

Table with columns: 別隊, 隊長名, 開人, 駐屯地, 戰鬥間の狀況及損耗, 終戦後の人員變動, 作業大隊より入ソ返の變動, 入ソ人員, 滿洲残留. Includes handwritten notes and dates.

0859
0860

第一方面軍軍直 部隊名 第一二二師團司令部

通稱號

滿洲 九四 四六 三二 部隊
眞鶴 一〇六一 部隊

郵便所名

全般概要

二〇、四、三〇
駐丹江波河下河原
人員三〇〇名

一九、一、一五
駐丹江波河下河原
人員三〇〇名

八、一、一三
駐丹江波河下河原
人員三〇〇名

九、一、一〇
駐丹江波河下河原
人員三〇〇名

九、一、一〇
駐丹江波河下河原
人員三〇〇名

三、三、〇
駐丹江波河下河原
人員三〇〇名

駐丹江波河下河原
人員三〇〇名

轉入 轉出

十九年以降
十九年以降

員人制編

155 (26)

別隊

隊長名

時員

戰時 平時

駐屯地

江丹社

戰鬥間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より入ソ連の變動

入ソ連人員

隊別計

滿洲殘留

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

收容

部隊名 第一二二師團司令部

通稱 號

滿洲 九四 四六 二部 隊
眞鶴 一〇六一部 隊

郵便所名

員人制編

別 隊

隊長名
(内は先代を示す)
中將 赤鹿 理
高級副官少佐 柴田 富雄
主八并 池田 忠二

戰 闘 人 員

駐屯地
平 時 駐 江 丹 社
戰 時 駐 江 丹 社

戰鬥間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より入「ソ」迄の變動

入「ソ」人員
隊別 計

滿洲残留

收 容 所

所 入

死 亡

滿洲「ソ」領
より 計

歸還人員
者 数

状況不明

155

(26)

器 兵 部 謀 參 部 理 管 部 官 副

少佐 依川 文藏
技中尉 阿部 政喜

大佐 岩元 謙秀
主任參謀少佐 守田 省吾

高級副官少佐 柴田 富雄
主八并 池田 忠二

守衛隊の主力を兼帯として昭和二十年四月在
召集者を加人して昭和二十年四月在

部隊作戦行動以來、因に臨時野戦病院を開設其の他衛生材料補給部隊衛生勤務に際し並びに部隊家族の診察石頭治療より衛生材料受領

昭和八年五月、南湖、
不武裝解除、
ニ名、
ニ名、

昭和九年七、南湖、
不武裝解除、
百大隊、
入「ソ」

平均三、五、離隊

昭和二十年四月一日

陸軍省 陸軍部 兵務局

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省	陸軍部	兵務局	兵務課	兵務課長	佐々木 啓介
陸軍省	陸軍部	兵務局	兵務課	兵務課長	佐々木 啓介
陸軍省	陸軍部	兵務局	兵務課	兵務課長	佐々木 啓介
陸軍省	陸軍部	兵務局	兵務課	兵務課長	佐々木 啓介
陸軍省	陸軍部	兵務局	兵務課	兵務課長	佐々木 啓介
陸軍省	陸軍部	兵務局	兵務課	兵務課長	佐々木 啓介
陸軍省	陸軍部	兵務局	兵務課	兵務課長	佐々木 啓介
陸軍省	陸軍部	兵務局	兵務課	兵務課長	佐々木 啓介
陸軍省	陸軍部	兵務局	兵務課	兵務課長	佐々木 啓介
陸軍省	陸軍部	兵務局	兵務課	兵務課長	佐々木 啓介

昭和二十年四月一日

陸軍省 陸軍部 兵務局

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

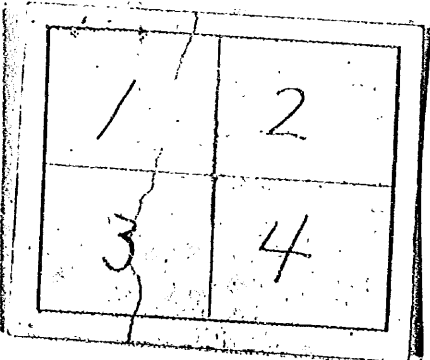
陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

陸軍省 陸軍部 兵務局 兵務課長 佐々木 啓介

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0861
0862
0863
0864
0865
0866

第一方面軍軍直 第一二二師團

部隊名 歩兵第二一六五聯隊

通稱號 眞滿洲二四一四部隊

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人副編	隊別	隊長名	戰人員	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	入ソ人員	滿洲残留
<p>部隊は元第四師團教導隊として編成され、主として陸軍省に配属されていたが、戦況の変化により、第四師團教導隊に補充され、現地に展開した。</p> <p>昭和二十年三月、牡丹江防線に展開し、戦線に投入された。牡丹江防線は、第四師團教導隊の主要な防線であり、部隊はここで激戦を交わした。</p> <p>五月初、牡丹江防線が崩壊したため、部隊は撤退し、山海關に退いた。そこで、部隊は再編成された。</p> <p>七月初、部隊は再編成された後、山海關に展開した。ここで、部隊は再び激戦を交わした。</p>		<p>二〇、三〇 四師團一連隊 四八五五 二〇、一 七二二 三、二 三、二 五、三〇 三、三〇 三、三〇 五師團 八八八 二二九 三二九 一〇五 二二五 二四三 一四三 二四三 二四三 二四三</p>	<p>二〇、三〇 四師團一連隊 四八五五 二〇、一 七二二 三、二 三、二 五、三〇 三、三〇 三、三〇 五師團 八八八 二二九 三二九 一〇五 二二五 二四三 一四三 二四三 二四三 二四三</p>	<p>員人副編</p>	<p>隊別</p>	<p>隊長名 (内は先代を示す)</p>	<p>戰人員</p>	<p>駐屯地</p>	<p>戦闘間の状況及損耗</p>	<p>終戦後の人員變動</p>	<p>入ソ人員</p>	<p>滿洲残留</p>
二〇、四月 第四師團司令部より牡丹江防線に展開し、戦線に投入された。		歩七聯隊 歩八聯隊 歩三聯隊 山海關一連隊	歩七聯隊 歩八聯隊 歩三聯隊 山海關一連隊	員人副編	聯隊本部	大尉 上原豊吉 少尉 堀野一衛	950					
七、中旬 山海關に展開した。ここで、部隊は再び激戦を交わした。		歩一連隊 歩二連隊 歩三連隊 歩四連隊 歩五連隊 歩六連隊 歩七連隊 歩八連隊 歩九連隊 歩十連隊 歩十一連隊 歩十二連隊 歩十三連隊 歩十四連隊 歩十五連隊	歩一連隊 歩二連隊 歩三連隊 歩四連隊 歩五連隊 歩六連隊 歩七連隊 歩八連隊 歩九連隊 歩十連隊 歩十一連隊 歩十二連隊 歩十三連隊 歩十四連隊 歩十五連隊	員人副編	聯隊本部	大尉 上原豊吉 少尉 堀野一衛	950					

昭和二十年九月十日演習
「タイム」地区へ移送
「コムソリスク」地区へ移送

作業大隊より入ソ人員

戦後、部隊は再編成された。

昭和二十年八月九日、陸軍省に移動。八月十日、第十二師団に補充された。八月十一日、司令部に到着したが不在のため東京城へ向う。九月三日、南滿洲に於て武解。送亡鮮兵一名、日兵八名。

山海關に展開した。ここで、部隊は再び激戦を交わした。

0861
0862
0863
0864
0865
0866

第一方面軍直轄 第一二二師團 部隊名 歩兵第一二六五聯隊 通稱 滿洲 四一四部隊 郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人制編	別隊		駐屯地		戦闘間の状況及損耗		終戦後の人員變動		郵便所名	
本隊は元第四師團中隊(池田)員を主力とし、その一部を第一二二師團に転入して編成された。		十九年以降 二〇三、三〇 四四〇一 四八五名	十九年以降 二〇、 北三師團 二名	員人制編	隊長名 (内は先代を示す) 大佐 出村 耐造 副官 高木 為雄	關人 戦時 40	駐屯地 牡丹江 江平 河接 湖鏡 地側 山南 湖通	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ返の變動	入ソ人員 除別計	満洲残留	郵便所名	
二〇、四月 師團司令部より牡丹江省沿道中に師團防備地帯を定め、その一部を先鋒隊として編成した。		二〇、五月 歩七師 四名 歩八師 二名 歩三師 二名 山砲三聯 一名 八〇兵隊 一名 工一隊 一名 工二隊 一名 工三隊 一名 工四隊 一名 工五隊 一名 工六隊 一名 工七隊 一名 工八隊 一名 工九隊 一名 工十隊 一名 工十一隊 一名 工十二隊 一名 工十三隊 一名 工十四隊 一名 工十五隊 一名 工十六隊 一名 工十七隊 一名 工十八隊 一名 工十九隊 一名 工二十隊 一名 工二十一隊 一名 工二十二隊 一名 工二十三隊 一名 工二十四隊 一名 工二十五隊 一名 工二十六隊 一名 工二十七隊 一名 工二十八隊 一名 工二十九隊 一名 工三十隊 一名 工三十一隊 一名 工三十二隊 一名 工三十三隊 一名 工三十四隊 一名 工三十五隊 一名 工三十六隊 一名 工三十七隊 一名 工三十八隊 一名 工三十九隊 一名 工四十隊 一名 工四十一隊 一名 工四十二隊 一名 工四十三隊 一名 工四十四隊 一名 工四十五隊 一名 工四十六隊 一名 工四十七隊 一名 工四十八隊 一名 工四十九隊 一名 工五十隊 一名 工五十一隊 一名 工五十二隊 一名 工五十三隊 一名 工五十四隊 一名 工五十五隊 一名 工五十六隊 一名 工五十七隊 一名 工五十八隊 一名 工五十九隊 一名 工六十隊 一名 工六十一隊 一名 工六十二隊 一名 工六十三隊 一名 工六十四隊 一名 工六十五隊 一名 工六十六隊 一名 工六十七隊 一名 工六十八隊 一名 工六十九隊 一名 工七十隊 一名 工七十一隊 一名 工七十二隊 一名 工七十三隊 一名 工七十四隊 一名 工七十五隊 一名 工七十六隊 一名 工七十七隊 一名 工七十八隊 一名 工七十九隊 一名 工八十隊 一名 工八十一隊 一名 工八十二隊 一名 工八十三隊 一名 工八十四隊 一名 工八十五隊 一名 工八十六隊 一名 工八十七隊 一名 工八十八隊 一名 工八十九隊 一名 工九十隊 一名 工九十一隊 一名 工九十二隊 一名 工九十三隊 一名 工九十四隊 一名 工九十五隊 一名 工九十六隊 一名 工九十七隊 一名 工九十八隊 一名 工九十九隊 一名 工百隊 一名	七、中旬 半島出身兵約一〇〇名入隊 七月中旬に入隊した隊員は、人員が少く、作業人員が少く、少中隊編成人員は作業地にて、約半年後、人員は減少し、不明な状態の中、約半年後、一〇〇名中六〇〇名は、約一五〇名入隊	隊員制編	隊長名 (内は先代を示す) 大佐 出村 耐造 副官 高木 為雄	關人 戦時 40	駐屯地 牡丹江 江平 河接 湖鏡 地側 山南 湖通	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ返の變動	入ソ人員 除別計	満洲残留	郵便所名	
第一隊 中尉 森 信成	第二隊 少尉 北村 克己	第一大隊 大尉 上原 豊吉 少尉 渡辺 一衛	950	戰鬥間の状況及損耗 昭和二十二年八月九日奥隆に移動 八月十日、第一二二師團、十二時再び警備に出勤、海鏡飛行場着 夕方寧安に後退 八月十一日司令部に到着したが不在のため東京城へ向う 次いで八月十二日鏡泊湖迄後退し 九月三日南湖頭に於て武解 逃亡鮮兵一名、日係八名	郵便所名									

部隊名 歩兵第二六五聯隊

通稱 號 滿洲 四一四部隊
直轄 二〇六二部隊

郵便所名

出		以		降		人員		編																			
別	隊	長	名	職	員	戰	時	駐	屯																		
別	隊	長	名	職	員	戰	時	駐	屯																		
二第	隊中一第	部本隊大一第	李行隊聯	部本隊聯	中尉 齋藤	大尉 上原 豊吉 少尉 坂本 一衛	950	40	江丹 莊 河 接	湖泊 鏡 地山 側南 湖 側南	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 除別計	滿洲 殘留	收 容 所 名	收 容 所 人 員	死 亡	歸 還 人 員	計	狀 況 不 明 者 數						
											昭和二十一年八月九日興隆に移動 八月十日、十二時再び營備に出勤、海軍飛行場着 夕方寧安に後退 八月十一日司令部に到着したが不在のため東京城へ向う 次いで八月十二日鏡泊湖に後退し 九月三日南湖頭に於て試練 逃亡鮮兵一名、日兵八名			山崎大隊編入 山崎大隊編入 山崎大隊編入													

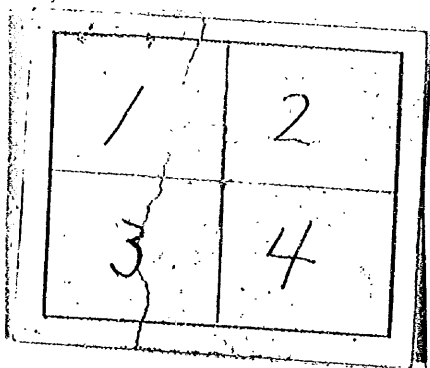


隊本部	隊本部	隊本部	隊本部	隊本部	隊本部
大尉 藤本 爲雄	中尉 齋藤 嘉	大尉 上原 豊吉 少尉 渡辺 一衛	中尉 森 信成	少尉 泉 藤雄 少尉 北村 克己	中尉 藤本 敏明 少尉 鈴木 木村 盛男
950	約 200	約 150			
江丹 砲隊	海防 砲隊				
昭和二十二年八月九日奥陸に移動 八月十日部隊、十二時再び整備に出動、海軍飛行場着 夕方寧安に後退 八月十一日司令部に到着したが不在のため東京城へ向う 次いで八月十二日鏡泊湖迄後退し 九月三日南湖頭に於て武解 逃亡鮮領一名、日係八名	終戦時中隊は陣地放棄に従軍中隊の人員を に原隊にあり	第二小隊(木村小隊) 八〇一〇 牡丹江飛行場附近及落下を襲撃 する砲撃隊の警戒 八〇一〇 命に依り砲撃電撃(機銃掃射) 砲及機銃に於て師團主力の通過を警戒 八〇一七 停戦命令を受く 機三三九二 赤松隊は集結 六ノ洞守備隊は全隊武解 二五八連備隊を解			
山陽大隊編入	山陽大隊編入	山陽大隊編入	山陽大隊編入	山陽大隊編入	山陽大隊編入
カク チ ニ ラ カ ラ					

二名 一名

隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大第一第	李行隊聯	部本隊聯
中尉 藤本敏明 1少尉 鈴木 2少尉 木村盛男	少尉 泉 藤雄 北村 克己	中尉 森 信成	大尉 上原 豊吉 少尉 湯丸 新	中尉 齋藤	中尉 高木 爲雄
約 200	約 180	約 180	950		40
江 丹 江 河 級					
<p>昭和二十一年八月九日奥陸に移動 八月十日午後十二時再び替備に出勤、海軍飛行場着 夕方等に安に後退 八月十一日司令部に到着したが不在のため東京城へ向う 次いで八月十二日鏡泊湖迄後退し 九月三日南湖頭に於て武解 送亡鮮係一名、日係八名</p> <p>終戦時中隊は陸地機要に従軍中隊の人名簿に 記載あり</p> <p>第二小隊(木村小隊) 八、一〇 牡丹江飛行場附近及落下を準備 する航空機部隊の警戒 八、一二 命に依り奥陸地帯へ撤退準備 及陸橋に於て部隊主力の通過警戒 八、一七 停戦命令を受く</p> <p>八、一九 東京城に集結 九、三 南湖頭に於て司令部に 入る入る遺留機要あり</p>					
<p>在満軍曹長及野兵は現地解散 (約 200名)</p> <p>二京大隊編入(約 150名)</p> <p>山崎大隊編入</p> <p>山崎大隊編入</p>					
<p>クイセツ カツタマ プラゴニ カラトフ ラブカ ニラ</p>					

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0867
0868

0869
0870

第一方面軍軍直
第一二二師團

部隊名 歩兵第二六五聯隊

通稱 號

真鶴 四一四部隊
二一〇六二部隊

郵便所名

全般概要

轉入
十九年以降

轉出
十九年以降

員入制編
別除

隊長名
()内は先代を示す
中尉 松本 幸藏

開人
職員
平時
戰時

駐屯地
戰鬥間の狀況及損耗
終戦後の人員變動

作業大隊より
入「ソ」迄の變動
と有大隊へ編入

隊別計
入「ソ」人員
滿洲残留

收

八、七 留守部隊は陣地のある主力と合流主力部隊は退却を知ると直に陣地捕獲に任じ一部先遣隊を牡丹江に派遣する。その後の侵入退却なるため陣地に後退すしし、手袋等を各所に配發し、敵迎撃準備に邁進すし、かたども戦士は全く奮起す。

八、二〇 陣地に於て現地召集者約八五〇名、捕獲者約七〇〇名、半島出身者約二五〇名を召集解除す。

九、二 陣地出發南滿洲にて武装解除し、前進部隊一ヶ中隊のみ北滿洲にて武装解除す。

九、七 真偽收容所へ

一〇、一 牡丹江外郊外收容所へ移動作業三ヶ大隊編成

一、大隊長 大尉 上原芳吉

二、大隊長 大尉 山崎登

三、大隊長 大尉 佐藤友次

全校の長を山崎大尉任す

一〇、八

獨歩五六八六 四、二七

獨歩五七一六 步二六七聯

獨歩七七七旅 五、三

獨歩七〇六 隊一九聯

獨歩一〇一 五、七

獨歩一〇〇 一二二師團

獨歩四〇〇 獨歩八旅團

獨歩三三三 五、一五

獨歩二二二 獨歩一

獨歩一八八 一方軍軍司

獨歩一八八 六、五

獨歩七五八九 六、二七

獨歩六六六 八、二

獨歩七〇〇 獨歩四〇二

獨歩一五五 一五五

平陽鎮駐防 八名

一二師團 七名

一二師團 七名

二五師團 一名

獨歩五五聯 二名

獨歩五六聯 二名

獨歩五三六 二名

獨歩五三六 二名

獨歩一〇一 八名

獨歩一〇一 三名

獨歩七七七 一〇名

獨歩一〇一 一名

獨歩六四六 一名

獨歩一〇二 一名

獨歩二二六 一名

隊別	隊長名	開人	職員	平時	戰時	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	郵便所名	隊別計	入「ソ」人員	滿洲残留
第一機關銃中隊	中尉 松本 幸藏	210										
第一歩兵砲小隊	大尉 佐藤 友次											
第二大隊本部	少尉 近藤 寅三											
第五中隊	少尉 龍平											
第六中隊												

部隊名 歩兵第一一六五聯隊

通稱 號 滿洲 一四二四部隊
真鶴 一〇六二部隊

郵便所名

人員編制					
別	隊長名	中尉	大尉	少尉	少尉
第一機銃中隊	(内は先代を示す)	松本 幸藏	佐藤 友次	近藤 寅三	楠 龍平
第一歩兵小隊					
第二大隊本部					
第五中隊					
第六					
戰鬥間の状況及損耗					
終戦後の人員變動					
作業大隊より入「シ」迄の變動 上原大隊へ編入					
入「シ」人員					
隊別計					
滿洲殘留					
收容所名					
所人					
死亡					
滿洲「シ」領より					
歸還人員計					
者数					
状況不明					

一〇、八、一
 駐丹江海外洋砲隊事務所へ移
 動作第三ヶ大隊編成
 一大隊長 大尉 上原登吉
 二大隊長 大尉 山口 登
 三大隊長 大尉 佐藤友次
 全校の砲を山崎大隊に移す
 一〇、八、一
 九、二、
 陸地田部寄附頭にて武蔵隊
 隊員し新編砲隊一ヶ中隊の
 歩兵砲隊にて武蔵隊隊員
 九、七、
 砲兵隊事務所へ
 一〇、八、一
 九、二、
 砲兵隊事務所へ
 一〇、八、一
 九、二、
 砲兵隊事務所へ

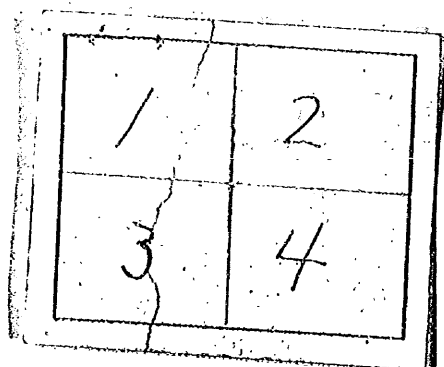
隊中七第	隊中六第	隊中五第	部本隊大第二	隊小砲兵歩第一	隊中銃騎機第一
少尉 伊藤	少尉 楠 龍平	少尉 近藤 寅三	大尉 佐藤 友次		
					210

隊中七第	隊中六第	隊中五第	部本隊大二第	隊小砲兵歩一第	隊中銃擧第一第
少尉 伊藤	少尉 楠 龍平	少尉 近藤 寅三	大尉 佐藤 友次		
					210

小隊隊長 伊藤

分割撮影ターゲット

分割した
部分の
撮影順序



分割撮影
した理由

A 3 判 以 上 の た め

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

0871
0872

第一方面軍直轄
第一二二師團

部隊名 歩兵第二六五聯隊

通稱號

滿洲
眞鶴 四二四部隊
一二〇六二部隊

郵便所名

全般概要

轉入
十九年以降

轉出
十九年以降

人員制編

別

隊長名
(内は先代を示す)

戦時人員

平時人員

駐屯地

戦況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入ソ迄の變動

入ソ人員

隊別計

滿洲殘留

收

一、一、二 陸軍大隊(河)

一、一、三 同地隊

一、一、四 同地隊

一、一、一 作業大隊(イルグーシク)

一、一、二 同地隊

一、一、三 同地隊

一、一、四 同地隊

一、一、五 同地隊

一、一、六 同地隊

一、一、七 同地隊

一、一、八 同地隊

一、一、九 同地隊

一、一、一〇 同地隊

一、一、一一 同地隊

一、一、一二 同地隊

一、一、一三 同地隊

一、一、一四 同地隊

一、一、一五 同地隊

一、一、一六 同地隊

一、一、一七 同地隊

一、一、一八 同地隊

一、一、一九 同地隊

一、一、二〇 同地隊

一、一、二一 同地隊

一、一、二二 同地隊

一、一、二三 同地隊

一、一、二四 同地隊

一、一、二五 同地隊

部隊名 歩兵第二六五聯隊

通稱號

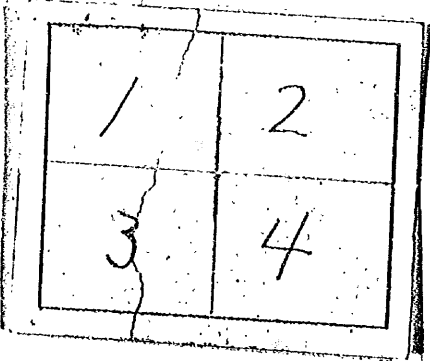
滿洲 四一四部隊
真鶴 一〇六二部隊

郵便所名

人員編制			別	隊長名	開入	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ッレ込の變動	入ッレ込人員		満洲残留	收容所名	所入死亡	縮還人員	状況不明者数
第	隊	中	第	(内は先代を示ス)	時員	時				戦	隊別					
第	九	中	第	中尉 近藤 義明												
第	三	本	部	大尉 山崎 登 中尉 斎藤 武夫	950					山崎大尉編入						
第	二	中	隊	中尉 宮林 甚作												
第	一	隊		中尉 安阿 和雄						佐々木大尉編入						

隊中一十第	隊中十第	隊中九第	部本隊大三第	隊小砲兵歩二第	隊中銃關機二第
少尉 佐藤 理	中尉 安阿 和雄	中尉 近藤 義明	大尉 山崎 登 中尉 斎藤 茂		
358			950		
江戸 紅 河 砲					
二道砲					
<p>廣南 五ノ森 中 七ノ力 五ノ森 杉 宇野 辰三 八ノ三 南 湖 野 二 次 解</p>					
<p>佐 藤 大 塚 編 入 以 三 〇 一 〇 二 〇 三 〇 三 〇 五 〇 入 切</p>	<p>佐 藤 大 塚 編 入</p>	<p>佐 藤 大 塚 編 入</p>	<p>山 崎 大 塚 編 入</p>		

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0875
0876
0877
0878

第一方面軍軍直
第二二師團

部隊名 歩兵第二一六五聯隊

通稱號 滿洲 眞鶴 四二四部隊
一〇六二部隊

郵便所名

全般概要		轉入		轉出		人員編		隊別		隊長名		戰時人員		駐屯地		戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より		入ソノ人員		滿洲殘留		收	
		十九年以降		十九年以降				別		(内は先代を示す)		時		平						入ソノ迄の變動		隊別					
馬	乘	隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩		隊中砲兵歩	
		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井		中尉 龜井	
		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義		少尉 吉岡 赫義	
10		160		130 270		260		260		260		260		260		260		260		260		260		260		260	
		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹		江 丹 江 丹	
		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖		南 湖 南 湖	
		六、一勳奉隊四〇〇名を指揮し陸地附近の遊撃隊及び陣地構築に従事し中隊となる。		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り		我々歩隊は陸地を占領し九月九日南湖湖を渡り	
		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入		山崎大隊編入	
		370		370		370		370		370		370		370		370		370		370		370		370		370	

隊名 歩兵第二六五聯隊

通稱 號 滿洲 四一四部隊 眞鶴 二一〇六二部隊

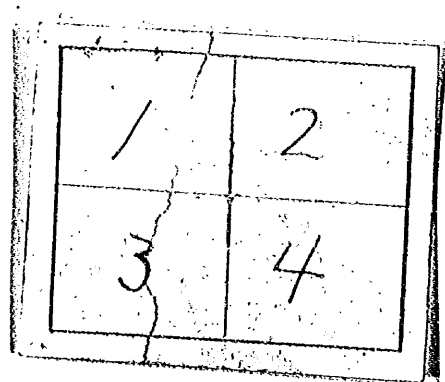
郵便所名

乗	隊中砲兵歩	隊中信通	隊小砲兵歩三第	隊中銃關機三第	別 隊	
					隊長名 ()内は先代を示す 中尉 高木 享	開人 戦時員
					駐屯地	
					平	戦時
					戦斗間の状況及損耗	
					終戦後の人員變動	
					作業大隊より 入ソノ迄の變動	
					除別	入ソノ人員
					満洲残留	
					收容所名	
					所入	
					死亡	
					満洲ソノ領計	
					歸還人員	
					状況不明者数	
	160	130 270		260	江月江 江江	南 頭
少尉 吉岡 赫義	中尉 龜井	少尉 畑 吉明			戦斗間の状況及損耗 眼目五、中尉高木を先代とす。他種 隊員、歩兵連中尉高木及隊員等 少尉三〇名程也	
六、一動奉隊四〇〇名を指揮し、陣地附近の 隊員、隊長及び陣地警備隊中尉等とす。					終戦後の人員變動 終戦後、歩兵連中尉高木を先代とす。他種 隊員、歩兵連中尉高木及隊員等 少尉三〇名程也	
山崎大隊編入					作業大隊より 入ソノ迄の變動 上野大隊編入、隊員 五〇名、二、五、隊員等 業、二、初旬、渡河、中 隊、入ソノ	
山崎大隊編入					入ソノ人員 計	
					満洲残留	
					收容所名	
					所入	
					死亡	
					満洲ソノ領計	
					歸還人員	
					状況不明者数	

隊中業作	隊小馬乘	隊中砲兵歩	隊中電信通	隊小砲兵歩三第	隊中銃砲重三第
中尉 石倉 文雄	少尉 吉岡 赫義	中尉 龜井	少尉 畑 吉明		
120	40	160	130 230		280
					三 砲 二 銃
					三 砲 二 銃
					三 砲 二 銃
	六、一勅奉降四〇〇名を捕獲し陣地附近の 道路橋梁及び陣地構築等中閉鎖となる。		我々の捕獲した降参り九二二名 捕縛不致詳		三 砲 二 銃
			降参り二〇名 拒捕せしめ捕縛		三 砲 二 銃
	山崎大隊編入	山崎大隊編入	山崎大隊編入 降参り 二〇名 拒捕せしめ捕縛 不致詳		三 砲 二 銃
			三 砲 二 銃		三 砲 二 銃
			320		

隊中薬作	隊小馬柔	隊中砲兵步	隊中通信	隊小砲兵步三第	隊中銃騎發三第
中尉 石倉 文雄	少尉 吉岡 赫義	中尉 釜井	少尉 畑 吉明		
120	40	160	180 230		280
					野 野 野
					野 野 野
		六、一動奉隊四〇名を指揮し陣地附近の 道路橋梁及び陣地構築從事中隊長となる。	我々も我々の陣地をこなし陣地を九、一、南 湖橋に設け		野 野 野 野 野 野 野 野 野
			野 野 野 野 野 野 野 野 野		野 野 野 野 野 野 野 野 野
	山崎大塚編入	山崎大塚編入	山崎大塚編入 編入 編入		野 野 野 野 野 野 野 野 野
			330		

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0879
0880
0881

第一方面軍軍直
第一二二師團

部隊名 歩兵第二六六聯隊

通稱號

滿洲
真鶴 一〇八〇二部隊
一〇六三三部隊

郵便所名

0882
0883

全般概要

一九、八、二一
二〇、三、三〇
五、中海沿河地に駐屯
五、中和主力（約五分の四）
は鐵道沿河附近に移動陣地を
築き、

轉入 轉出
十九年以降 十九年以降
員人制編 別
隊長名
（）内は先代を示す
關入 駐屯地
戰鬥間の狀況及損耗
終戦後の人員變動

作業大隊より
入「ソ」迄の變動

入「ソ」人員
除別計

滿洲残留

八、一九
八、一七
八、一〇

八、一九
八、一七
八、一〇
三機團に分れ行動し
夫々陣地死守
終戦中島嶼丁解散
沿河沿河沿河にて兵器解散

昭和二十年四月一日
五月一日
現 現 現 現
現 現 現 現
集 集 集 集
八 八 八 八
百 百 百 百
五 五 五 五
十 十 十 十
名 名 名 名

中尉 吉田 益三
少尉 龜尾 益三
少尉 石籠 真雄
少尉 井手 追定
少尉 伊藤 稔

約210

約190

九、一四
九、一六
九、一八

九、一四 拉古登
九、一六 拉古登
九、一八 拉古登

九、一八
先鋒大隊にホルル地区第一
七收容所第六分所に入所
（九、二二）
在々木大隊にチシロロエ
へ藤田大隊にタイセツト地
區ネーブルスカヤに收容さ

三 隊
中 二 第
隊 中 一 第

約190

第一方面軍直轄
第一二二師團

部隊名 歩兵第二六六聯隊

通稱號 滿洲 眞鶴 八〇二部隊
一〇六二部隊

郵便所名

0879
0880
0881
0882

全般概要
轉入
轉出
員人制編

別隊
隊長名
（内は先代を示す）

開入
駐屯地
戦時
平時

戦闘間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入ソ迄の變動

入ソ人員
隊別計

滿洲殘留

收

五月中旬主力（約五分の四）は松泊湖附近に移駐地帯を築き其地帯に
二二二名
二二六名
七五名
七四名
一九兵衛隊、二三名

大佐 鈴木 求馬
副中尉 谷口 三郎
旗少尉 宮田 高明
中尉 伊藤 直行
大尉 荒井 勝
中尉 藤田 主殿

開入
駐屯地
戦時
平時

戦闘間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入ソ迄の變動

入ソ人員
隊別計

滿洲殘留

收

八、一七 終戦半島駐丁解散
八、一八 夫々陣地死守
九、一 松泊湖湖頭にて武装解除
九、四 羅陽飛行場に收容され作業大隊編成
作業二七九大隊
長 大尉 森 浩
作業二六二大隊
長 大尉 佐々木 利次
作業二六五大隊
長 中尉 藤田 主殿
九、一三 拉古登
九、一四 拉古登
九、一六 拉古登
九、一八 松泊湖湖頭にて武装解除
先鋒大隊はホルル地区第一七收容所第六分所に入所
（九、二二）
佐々木大隊はチヨブロー、藤田大隊はタイセツト地帯、松泊湖湖頭に收容され

第一大隊本部
中尉 藤田 主殿
第一中隊
中尉 吉田 公平
少尉 龜尾 益三
第二中隊
少尉 石龜 貞雄
少尉 井手 定治
少尉 伊藤 稔
第三中隊
少尉 前田

開入
駐屯地
戦時
平時

戦闘間の状況及損耗
松泊湖湖頭にて武装解除
空安縣南湖頭陣地構築中開始
一、一一 南湖頭にて武装解除

終戦後の人員變動
松泊湖湖頭にて武装解除
松泊湖湖頭にて武装解除

作業大隊より
入ソ迄の變動
松泊湖湖頭にて武装解除
松泊湖湖頭にて武装解除

入ソ人員
隊別計

滿洲殘留

收

部隊名 歩兵第二六六聯隊

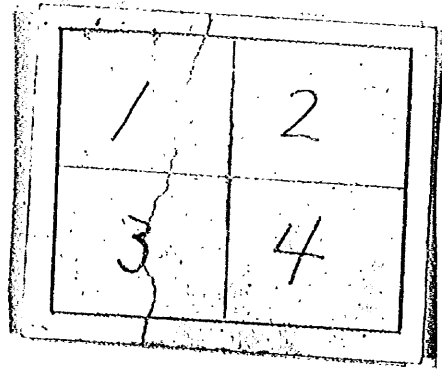
通稱 滿洲 八〇二部隊
真鶴 二二〇六三部隊

郵便所名

189		3410		人員制編	
三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大 一 第	部 本 隊 聯	別 隊
少尉 前田	少尉 石龜 貞雄 少尉 井手 追定 治 少尉 伊藤 稔	中尉 吉田 分平 少尉 龜尾 益三	中尉 藤田 主殿	大佐 柏木 求馬 副中尉 谷口 三郎 旗少尉 宮田 高明 醫大尉 伊藤 直行 書寫長 荒井 勝	隊長 名 (内は先代を不示)
	約210				開入 戦時 人員
					駐屯地
					戦闘間の状況及損耗
		空安縣南湖頭陣地構築中閉隊 一、一、一、南湖頭にて武装解除	約210		終戦後の人員變動
		約190			作業大隊より 入「ソ」迄の變動
					入「ソ」人員
					滿洲殘留
					收容所名
					所人
					死亡
					滿洲より 領計
					歸還人員
					狀況不明者數

分割撮影ターゲット

分割した
部分の
撮影順序



分割撮影
した理由

A 3 判 以 上 の た め

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

0884
0885
0886
0887

第一方面軍軍直
第一二二師團
部隊名 歩兵第一六六聯隊

通稱號 滿洲 八〇二部隊
眞鶴 一〇六三部隊

郵便所名

全般概要		轉入		轉出		人員編		別隊		隊長名		關人		駐屯地		戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入ソノ人員		隊別計		滿洲残留		收	
十九年以降		十九年以降		人員編		別隊		隊長名		關人		駐屯地		戰鬥間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入ソノ人員		隊別計		滿洲残留		收			
189		188		170		石 頭		鏡 湖		南 方		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知	
六、第		隊 中 五 第		隊 中 四 第		部 本 隊 大 二 第		隊 小 砲 兵 歩 一 第		大 尉 森 喬		少 尉 末 永 二 郎		少 尉 眞 本 正 夫		少 尉 鈴 木 武 夫		少 尉 山 下 武 夫		少 尉 福 田 龍 太 郎		少 尉 二 宮 敏 任		少 尉 福 田 龍 太 郎		少 尉 二 宮 敏 任	
189		188		170		石 頭		鏡 湖		南 方		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知	
189		188		170		石 頭		鏡 湖		南 方		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知		八、一七 終戦を承知	

部隊名 歩兵第二六六聯隊
 通稱號 滿洲 八〇二部隊
 郵便所名 眞鶴 一二〇六三部隊

隊 別		隊長名	開入	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より「入ッ」迄の變動	入「ソ」人員	滿洲殘留	收容所	歸還人員	状況不明者数					
六 第		隊 中 五 第	隊 中 四 第	部 本 隊 大 二 第	隊 小 砲 兵 歩 一 第	別 隊	時 員	平 時 戰 時	戰 斗 間 の 状 況 及 損 耗	終 戦 後 の 人 員 變 動	入 「 ソ 」 迄 の 變 動	入 「 ソ 」 人 員	滿 洲 殘 留	收 容 所 名	死 亡	滿 洲 「 ソ 」 領 域 計	者 数
少尉 二宮 敬任 少尉 福田龍太郎		少尉 眞本 正夫 同 少尉 鈴木 武夫 同 山下 武夫	少尉 末永 二郎	大尉 森 喬			170	石 頭 鏡 泊 湖 南 方	<p>陣地構築戦斗材料準備中同時 九、一、一 南滿洲にて武装解除</p> <p>八、一七 終戦を承知</p>	<p>八、一七 聯系二〇名を急務隊分派途中の 一七名未復隊（古河の一名のみ歸隊す）</p>	作業大隊より「入ッ」迄の變動	入「ソ」人員	滿洲殘留	收容所名	死亡	滿洲「ソ」領域計	状況不明者数

189		189			
隊中銃關機二第	隊中六第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	隊小砲兵歩一第
中尉 北村	少尉 二宮 敬任 少尉 福田龍太郎	少尉 眞本 正夫 少尉 鈴木 隆 同 山下 武夫	少尉 末永 二郎	大尉 森 喬	
	176	170	188		
		頭 石			
		湖沼鏡 方 南			
	主力は南湖沼鏡方山地にて陣地構築、一部は湖沼(移設八名石頭(六名))を占領し、同時に合流 九、一 阿地にて武器弾薬を受く	八、一七 終戦を承知	陣地構築戦士材燃焼中閉鎖 九、一 南湖沼にて武器弾薬		
		八、一七 終戦を承知 一七名未復讐(古河の一名のみ降参す)			

隊中銃關機二第

隊中六第

隊中五第

隊中四第

部本隊六二第

隊小砲兵歩一第

中尉
北村

少尉 二宮 敏任
少尉 福田 龍太郎

同 少尉 眞本 正夫
少尉 鈴木 隆
山下 武夫

少尉 末永 二郎

大尉 森 喬

176

170

188

頭 石

湖泊鏡
方 南

主力は南湖鏡南方山地にて陣地構築、一部は派遣(移設)八名石頭(六名)等々、同時に合流
九、一 同地にて武装解除を受く

八、一七 終戦を承知

陣地構築完了後、中隊中隊
九、一 南湖鏡にて武装解除

八、一七 鮮米二〇名召集解除分派遣中の
一七名未復讐(古河の一名のみ除隊す)